

要旨

高度経済成長以降、急速に人口・資産の集積が進んだ海拔ゼロメートル都市では、我が国の中枢機能を担っていると同時に、水害によって甚大な被害を及ぼし得る脆弱な地域でもある。これらの地域では伊勢湾台風以降、整備が進められてきたが、近年では気候変動に伴う災害の激甚化や将来的な海面上昇、既存堤防の老朽化等、様々な課題が浮き彫りになってきた。本研究はそれらの課題を踏まえ、今後の海拔ゼロメートル都市における水害対策のあり方について提言を行うものである。